

皆さんは、お仏壇の引き出しの中に何が入っているのか確認されたことがありますか？古いお仏壇の引き出しを開けてみると、実に懐かしいさまざまなものが詰め込まれています。

たとえば、敬老の日に自分や他の孫たちが送った手紙や、みんな若々しくて小さな頃の自分の姿が写っている写真など、発見するたびに整理の手が止まり、懐かしさとともに我が家の宝が身近なところに眠っていたことに驚かれることでしょう。

これらの手紙や写真は、たとえ上手な字でなくても、多少ピントがぼけていたとしても、私や私の家族にとっての「宝」です。よその家と比べたり、客観的に価値があるものかどうかを考えるまでもなく、その価値が実感できる「宝」なのです。お仏壇の中には、そんな宝が集まっていることが珍しくありません。

仏教では、「三宝」と呼ばれる、仏教徒にとっての三つの宝があります。「三宝」とは、「佛法僧」の三つを指します。「仏」とは、「ホトケ」のことです。お悟りをひらかれたお釈迦さまが初めて仏教が生まれますので、「仏」は、仏教徒の拠り所となるものです。「法」とは、お釈迦さまの教えを指します。お釈迦さまとともに、その教えは、仏教徒の拠り所となるものです。最後に、「僧」とは、お釈迦さまと、その教えを拠り所とする仲間を指します。仲間は、互いに励ましあい、ともに信頼しあうことで拠り所となります。この「佛法僧」の三つを「三宝」と呼びます。

お仏壇には、ご本尊様と、その家のご先祖様のお位牌が祀られています。

「仏」、つまり仏さまに手を合わせると、故人から生前に教えられたことを思い浮かべます。それが自分にとっての「法」となり、そのときにお仏壇を守る自分を含めた家族は「僧」といえるでしょう。お仏壇は、家庭の中で身近に「三宝」に出会うことのできる尊い場所なのです。

宝が宝を呼ぶように、ご本尊様に導かれて自らとご先祖様とをつなぐお仏壇であるからこそ、家族にとっての大切な宝が自然と集まってくるように思われます。

是非、ご家庭のお仏壇に手を合わせ、「三宝」に出会い、感じ取ってみてはいかがでしょうか？